

2023年2月2日

司法記者クラブ記者会見 説明趣旨

福 島 雅 典

1 はじめに

データサイエンスを基盤とするデータ駆動型社会にあって、正確なデータの継続的な収集と公開は国家の成り立ちの根幹に関わる事柄です。

新型コロナウイルスワクチン接種の有効性・安全性に関するリアルワールドデータの公開は、国民の健康・医療並びに生活・経済に決定的に重要な意味をもちます。

厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード(以下、アドバイザリーボードと略します)に提出された資料から、厚労省による新型コロナウイルス感染に関するデータの収集とその開示の不完全さに深刻な懸念を抱くに至りました。訴訟に至った事実経過について説明し、訴訟の内容についてメディアの方々にご理解と支援を求めたいと存じます。

2 ワクチン未接種者、ワクチン接種者における致死率等を把握していること

以下に述べる事実から、厚労省は、ワクチン未接種者、ワクチン接種者における新規の感染者数、同重症化率及び致死率を把握している事は明白です。

(1) 事実1

2022年7月27日、8月31日、9月7日に厚生労働省のアドバイザリーボードに提出された資料を見ますと、例えば、それぞれの2ページの表：ワクチン接種歴別の新規陽性者数を見ると、高齢者層である65歳から69歳についてはワクチン未接種者に比べて2回接種済み、3回接種済み10万人あたりの新規陽性者数は多くなっており(それぞれ約3倍、2倍)、70歳から79歳においてはワクチン2回接種済みでは、ワクチン未接種者よりも、10万人あたりの新規感染者数は平均1.4倍多く、3回接種済みでは未接種者よりも少ないものの減少幅は平均して18%程度です(資料：甲4、甲5、甲6、各2ページ)。

-(2) 事実 2

政府、厚労省並びに専門家と称する人たちによって、“ワクチン接種では感染は防げないが、重症化を防ぐことができる”とワクチン接種が全年齢層の国民に推奨されてきました。

(3) 事実 3

厚労省からアドバイザリーボードに提出された上記資料によれば、年齢層によっては、むしろワクチン接種によって 10 万人あたりの新規感染者数が増えている。しかるに、この資料においては、重症化数、死亡者数は不明です(同上資料)。

ここで、ワクチン接種者では本当に重症化する人の数、さらに死亡者数がワクチン未接種者に比べて少ないのか？という素朴な疑問が生じます。

よって、私たちは厚労省に対して 2022 年 8 月 1 日付けで情報開示請求を行いました(資料：甲 1 の 1, 2)。

しかるに、同年 11 月 29 日付けで行政文書不開示決定通知書を受け取りました(資料：甲 2 の 2)。

(4) 事実 4

2021 年 9 月 1 日に厚労省がアドバイザリーボードに提出した資料 2-6 においては致死率データが記載されていました(資料：甲 3, 5 ページ)。

(5) 事実 5

2021 年 9 月 1 日に厚労省がアドバイザリーボードに提出した資料 2-6 を見ると、致死率はワクチン未接種者に比べて、ワクチン 1 回、2 回接種者では、全年齢および 65 歳未満ではむしろ高いこと(全年齢では、2 回接種者の新型コロナウイルス感染による致死率は未接種者の 4.8 倍、65 歳未満では 2 倍)が分かります(資料：甲 3, 5 ページ)。

以上のとおり、厚労省は、ワクチン未接種者、ワクチン接種者における新規感染者数、同重症化率及び同致死率を把握している事は明白ですから、その不開示決定は不当です。

3 不開示は国民に深刻な不利益を強いる不当なもの

ワクチン接種を全国民に推奨する以上、その有効性と安全性について厚生労働

- 省は正確なリアルワールドデータを示す義務があるはずですが、このような国民の健康と医療に決定的な意味を持つデータをすべての国民に正確に開示しない事は、国民に深刻な不利益を強いる不当なものであります。

以上